

単元名 漢字辞典の使い方（東京書籍）

本時2 / 2時間

本時のねらい

育成を目指すプログラミング的思考

漢字辞典の仕組みと3種類の索引の使い方を知り、漢字の学習に活用しようとする。（主）

一般化



複数の物事の関係や規則をまとめる。

Stage2

本時のねらいとプログラミング的思考との関連性

本時の学習では、プログラミング的思考の中の一般化の思考を取り入れ、漢字辞典の配列と、部首や総画数の関係をまとめる活動に取り組む。漢字を調べる目的や分かっていることに応じて、漢字辞典の索引の方法を選択して調べることによって、本時のねらいを効果的に達成できる。

学習ツール

Viscuit

Scratch

スライド

スプレッドシート

無

プログラミング的思考に関する活動の流れ  
(展開を想定)

●教師の発問・指示

◇指導上の留意点

※学習ツールを使用する際の留意点

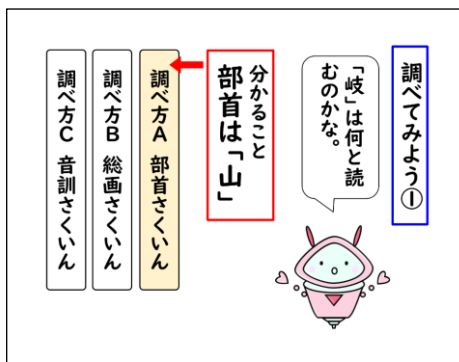
導入

1 漢字辞典で調べられること、使うと便利な場面を知る。

●「漢字の学習をしていて困ったことやもっと知りたいと思ったことを整理しましょう。」

◇前時までの学習を振り返り、3種類の索引(部首索引、総画索引、音訓索引)をどのように使い分けて調べるとよいか、考えさせる。

2 3種類の調べ方を使って、漢字を調べる。



◇できるだけ多くの漢字を調べることによって、漢字辞典の使い方に慣れさせる。また、3つの調べ方それぞれの良い点に児童自身が気付くことができるようにする。

◇4年生で習う漢字を基本に、調べる意義のある漢字を調べる対象として選んで提示する。

部首索引の例→岐、極  
総画索引の例→成  
音訓索引の例→臣、街

展開

3 漢字辞典の全体を見て、漢字がどんな決まりで配列されているか、話し合う。

●「漢字辞典全体は、どんな順に漢字が並んでいますか。」

◇漢字辞典は、基本的に部首の画数が少ない順に並んでいるため、部首の画数が分かれば、頁の見当を付けることができることに気付かせる。

◇3つの調べ方それぞれに利点と難点があり、常に速く引ける引き方はないため、目的や分かっている情報に応じて使い分ける必要があることに気付かせる。

終末

4 自分の名前の漢字を一字選び、漢字辞典で調べる。

◇次頁のワークシートを印刷して配布する。

◇自分の氏名の漢字(苗字か名前)を一字選ばせ、漢字辞典を活用することへの関心を高める。

◇なかなか調べる方法を決められない児童には、自分の名前の読み方での音訓索引を勧める。

自分の名前を調べよう。

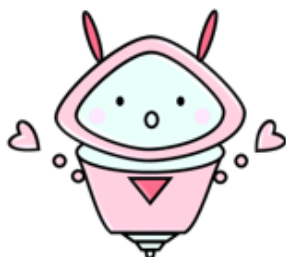
名前から選んだ一字

Blank box for writing the character chosen from the name.

調べた方法

Three small boxes for writing the search method.

Three vertical boxes containing the text: 部首さくいん, 総画さくいん, 音訓さくいん.



部首

Blank box for writing the radical.

部首の名前

部首の意味

Large vertical box for writing the name and meaning of the radical.

漢字の意味

Table with 6 columns and 1 row for writing the meaning of the character.

学習感想

Table with 6 columns and 1 row for writing learning impressions.